

草の根通信

Vol.84(2015年9月4日発行)



万次郎子孫の明日香さんと船長子孫のモーガンさんによる地球儀の交換

P12 事務局だより

2016年大会はジョージア州、大分でおおいにアピール

P12 協賛企業一覧

平成26年度寄附協賛企業一覧



特集

たくさんのお出会いと笑顔が溢れる大会となりました
おおいた大会 開催報告

P03 大会参加者数／スケジュール／
第4回サミット同窓会

P04 ローカルツアー／オープニング・セレモニー

P05 歓迎レセプション

P06 各地域分科会の概要

P08 大分県立美術館見学／クロージング・セレモニー

P10 「アマチ収容所保存会」の学生15名も参加！

P11 草の根サミット、高知大学、東京での企業訪問
をつなぐ初のプログラム





次の花を咲かせよう。

世界を舞台に多岐にわたる分野で、
様々なビジネスを創造してきました。
それでも、まだまだ成長過程。
人のため、社会のために、
まだ見ぬ花を咲かせていきたい。
私たちはこれからも創造し続けます。

すべては、
ひとつの思いから。

www.mitsubishicorp.com

 三菱商事



特集 おおいた大会 開催報告

2015年の「第25回日米草の根交流サミット2015おおいた大会」は、7月7日(火)から7月13日(月)まで、「おんせん県おおいた」として知られる大分県内各地で開催されました。九州での大会開催は、1995年の鹿児島大会から20年ぶり2回目です。他地域では味わえない自然、食、そして個性的な文化に親しみ、温かい県民性あふれるホストファミリーやボランティアと深く交流し、参加者達は充実の一週間を過ごしました。

大会スケジュール

7/6(月)		参加者、米国各地から出発
7/7(火)	20:25	大分空港着。バスで別府市へ [宿泊:杉乃井ホテル]
7/8(水)	08:30~15:00 17:00 18:15~20:15	ローカルツアー(5コース) オープニング式典 歓迎レセプション(会場:杉乃井ホテル) [宿泊:杉乃井ホテル]
7/9(木)	09:00 11:00~	地域分科会(11市での交流プログラム)へ出発 地域分科会の実施 [宿泊:ホームステイ]
7/10(金)	終日	地域分科会の実施 [宿泊:ホームステイ]
7/11(土)	終日	ホームステイファミリー毎に各地域で交流 [宿泊:ホームステイ]
7/12(日)	昼頃 15:40~ 16:30	大分県立美術館(OPAM)の見学 アマチ収容所保存会プレゼンテーション クロージングセレモニー フェアウェルパーティー (会場:大分オアシスタワーホテル) [宿泊:大分オアシスタワーホテル]
7/13(月)	午前	大分発 ・CIEオプションプログラム参加等

大会参加者数

大会参加者数
約2,100名

アメリカからの参加者:87名

- (うち68名がホームステイを含めた全日程に参加)
- ①オープニング式典 250名
 - ②歓迎レセプション 250名
 - ③レセプションでのボランティア(書道+神楽) 40名
 - ④大学・高校・福祉施設での特別交流 210名
 - ⑤ホストファミリー&地域プログラムへの参加者 600名
 - ⑥クロージング式典 300名
 - ⑦クロージング・レセプション 300名
 - ⑧クロージングでのボランティア(太鼓+鉄砲隊など) 40名
 - ⑨実行委員&ボランティア 30名

第4回サミット同窓会



鶴田浩一郎氏

7月7日午後、過去のアメリカ開催の草の根サミットに日本から参加した大会OBやOG(サミット同窓生)、CIE賛助会員など、総計35名が別府市の杉乃井ホテルに集いました。2009年から日本でのサミット開催に合わせて開かれている同窓会は、今年で4回目。同日夜に開催された懇親会では、コロラド州ご在住のポール・丸山さん(南コロラド日米協会前会長)から、ご自身のお父様に関する著作「満州 奇跡の脱出」に関して講演をいただきました。その後、温泉を核とした地域おこしを推進しておられるNPO法人ハットウ・オンパクの鶴田浩一郎氏から、大分の魅力をお話いただきました。懇談の時間には、別府の宝物「流しのはっちゃん・ぶんちゃん」のアコーディオンとギターのリードで、懐かしのメロディーで会場全体がおおいに盛り上がり、楽しいひと時を過ごしました。一行は、翌日8日のローカル・ツアーとオープニング式典、歓迎レセプションにも参加し、アメリカからの参加者とも交流。学びと交流、観光を楽しむ2泊3日を別府で過ごしました。

ー サミット同窓会幹事 ー
会 長:中山貴恵 副会長:魚岸志乃富
事務局:平田 潔 村井二葉 小高美喜



同窓会参加者



はっちゃん・ぶんちゃん楽しく踊る参加者

7月7日

米国から到着

米国からの参加者の居住地は様々ですが、2015年はサンフランシスコ、シカゴ、ヒューストン、ニューヨークの空港に一旦集まり、そこからANA便で成田に到着。成田空港でボランティアに迎えられた後、羽田に移動し大分空港には夜8時半頃に到着しました。大分空港では、大分サミット実行委員会事務局の皆様が暖かくお迎えくださいました。



成田のボランティア



大分での出迎えの様子

7月8日

ローカル・ツアー

到着翌日の8日、ほとんどの参加者達はオプション・ローカル・ツアーに参加。綿密に準備された5つのコースに別れ、それぞれ別府や由布院の自然を満喫したり、大分の文化活動に親しんだり、また立命館アジア太平洋大学や社会福祉法人太陽の家を訪問して学びの機会を得るなど、充実した半日を過ごしました。全てのコースには、著名な別府の「血の池地獄」「海地獄」「鬼石坊主地獄」の3地獄巡りも含まれました。



Aコース:別府自然コース



Cコース: 杵築・歴史のコース



Dコース: 湯布院コース



Eコース: 別府・学びのコース



Bコース:ユニーク大分コース



オープニング式典

8日の午後5時から、草の根サミットのオープニング式典が別府杉乃井ホテルで開催されました。開会に先立っては、会場内でボランティアの皆さんによる茶道体験と、芸術文化短期大学の学生による心休まるクラシック音楽の演奏を楽しみました。



芸術文化短期大学学生による演奏



茶道体験とお茶のサービス



▶ 主催者挨拶

姫野清高 - 実行委員長



▶ 開催地代表者挨拶

広瀬勝貞 - 大分県知事



▶ 来賓挨拶

マーガレット・マックロード
福岡米国領事館首席領事



▶ 万次郎と船長の両家子孫による挨拶と地球儀の交換

ボブ・ホイットフィールド
ホイットフィールド船長子孫



スコット・ホイットフィールド
ホイットフィールド船長子孫



河野雅治 - CIE理事長



長野恭紘 - 別府市長



マシュー・C・ベリー
ベリー提督子孫



万次郎子孫の明日香さんと
船長子孫のモーガンさんによる
地球儀の交換



中濱京 - 万次郎子孫

式典では、主催者、開催地代表者、来賓者による挨拶の後、草の根サミットの原点である万次郎とホイットフィールド船長の友情を2015年もつなぐ意味から、同家の直系子孫である中村明日香さんとモーガン・ホイットフィールドさんの間で、大会恒例の地球儀の交換が行われました。

7月8日

歓迎レセプション

午後6時過ぎからは、大分の実行委員会の皆様のご尽力で、素晴らしい歓迎レセプションが開催されました。アメリカからの参加者を迎える歓迎ムード一色で、テーブルにも大分自慢の料理の数々が並びました。

開催に先立っては、大分高校の書道部の皆さんによる、音楽に合わせた書道のパフォーマンスが披露され、その後、福島知克実行委員会副会長の挨拶で幕を開けました。鏡割りの後、大分出身の野村吉三郎CIE理事の乾杯で歓談の時間となり、その間も大分高校書道部の皆さんがアメリカの方々の名前を漢字でプレゼントしたり、勇壮な庄内神楽の「大蛇退治」の舞が披露されるなど、大分のおもてなしを存分に感じる楽しいレセプションとなりました。



大分高校書道部のパフォーマンス



福島知克実行委員会副会長による挨拶



鏡割り



野村吉三郎CIE理事による乾杯のご発声



アメリカからの参加者の名前を漢字でプレゼント



庄内神楽の披露



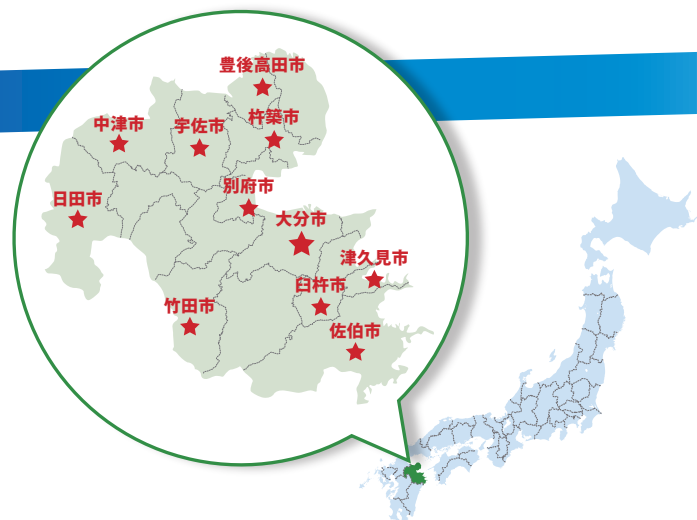
千壽健夫実行委員会副会長による中締め

7月9日～12日

地域分科会—ホームステイ・プログラム

7月9日、参加者達は草の根サミットのハイライトである11市で開催される地域分科会へ出発しました。地域分科会中の3泊4日は、それぞれの地域ならではの深い文化に浸りながら、さまざまな体験を通してボランティアらと交流し、またホームステイを通して大分の日常生活を体験しホストファミリーとの友情を育みました。

2015年は、コロラド州グラネイダ市で第二次世界大戦中に設置された日系人収容所の保存活動を行っている高校生・大学生も参加し、この学生達にも特別プログラムが準備されました。



各地域分科会の概要

1 大分 分科会

- 高崎山自然動物園でニホンザルの観察
- 水族館うみたまごのバックヤードツアー
- 新日鐵住金大分製鉄所の見学
- ホストファミリーとの対面式での子ども神楽
- 戸次町歩き観光
- 鶴崎おどり体験

大分市



2 臼杵 分科会

- 東中学校訪問、特別授業
- 多福寺で日本最初の英文法書「英文鑑」見学
- 歓迎交流会で詩吟と剣舞
- 石仏と蓮畑見学
- 世界一大きな木樽の醤油工場見学
- 臼杵祇園祭り見学

臼杵市



3 津久見 分科会

- 市長表敬訪問と分科会受入れ式
- まぐろ・はまちの養殖場見学と餌やり体験
- イルカとの遊泳
- 津久見高校でロボット相撲見学
- セメント工場・鉱山見学
- 扇子踊り体験

津久見市



4 佐伯 分科会

- 握り寿司づくり体験
- 鍾乳洞見学
- 浴衣を着て城下町散策、抹茶体験、神楽面工房見学
- マリンコーラル号乗船と珊瑚礁見学
- マリカル施設(資料館)見学
- 新豊南高校訪問と部活見学

佐伯市



5 竹田 分科会

- 陶芸絵付け体験
- 城下町散策と岡城址見学
- 姫だるま工房見学
- 中学校訪問と折り紙
- 書道体験
- 茶道体験

竹田市



6 日田 分科会

- 下駄製造見学と絵付け体験
- 小鹿田焼きの窯元と陶芸館見学
- サッポロビール九州日田工場見学
- 日田祇園山鉾会館見学
- 屋形船体験
- 豆田の町並み散策

日田市



7 中津 分科会

中津市

- 中津城、福沢諭吉旧居と町並み散策
- TOTO工場見学
- 八面山平和公園と金色温泉
- そば打ち体験
- オランダ橋、青の洞門、羅漢寺見学
- 野外バーベキュー



8 宇佐 分科会

宇佐市

- 安心院ワイナリーと酒蔵見学
- 宇佐神宮見学とお茶会
- 歓迎交流会(太鼓、盆踊り体験)
- 石橋巡り
- 鏝絵見学と鏝絵作り体験
- 高校相撲見学



9 豊後高田 分科会

豊後高田市

- 昭和の町散策
- ボンネットバス乗車
- 富貴寺で座禅・写経・拝観
- 長崎鼻搾油施設でドレッシング作り体験
- スパランド真玉で入浴
- バーベキューと花火体験



10 杵築 分科会

杵築市

- 着物で武家屋敷散策
- 歓迎交流会
- 茶畑見学
- 日本食作りと日本の遊び体験
- 杵築城見学
- 大衆演劇の舞踊ショー見学



11 別府 分科会

別府市

- 竹細工伝統産業会館で竹鈴製作
- 鉄輪で地獄蒸し工房視察
- 鉄輪湯けむり散策
- 香の博物館見学と香水製作体験
- 九州オルレ(トレッキング)別府コース体験
- 別府ロープウェイ



12 アマチ保存会・高校生/大学生交流プログラム

- 立命館アジア太平洋大学見学とプレゼンテーション
- 新日鐵工場見学
- 上野丘高校との交流
- 授業への参加とプレゼンテーション
- 部活見学
- クロージングでのプレゼンテーション



7月12日

大分県立美術館(OPAM)見学

ホストファミリーやボランティアとの別れの日となる7月12日、参加者はホストファミリーとともに、4月にオープンしたばかりの大分県立美術館(OPAM)に招待されました。世界的に著名な建築家、板茂さん設計によるOPAMでは、開館記念展として「モダン百花繚乱」が開催されており、参加者たちはダリ、マチス、ピカソ、ウォーホール、青木繁、岸田劉生、棟方志功などの芸術家の息吹に触れました。



OPAM見学

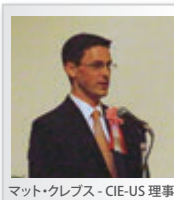
クロージング・セレモニー&フェアウェル・パーティー

OPAM見学後は、大分オアシスタワーホテルの会場で開催されたアマチ保存会の生徒達による、第二次世界大戦中の日系人収容に関するプレゼンテーションに熱心に耳を傾けました。(P10参照)

その後、同会場では、クロージング・セレモニーが開催され、主催者、開催地代表者、来賓者の挨拶に続いて、地域分科会の報告が行われました。分科会報告では、それぞれの地域に参加したアメリカからの代表者が、プログラムの概要や印象について熱く紹介。ホストファミリーやボランティアへの感謝の言葉が述べられました。



姫野清高-実行委員会長



マツ・クレプス-CIE-US理事



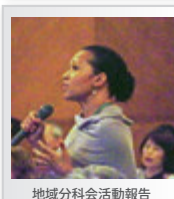
広瀬勝貞-大分県知事



佐藤樹一郎-大分市長



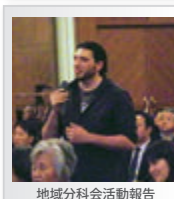
ユーリー・フェッジキフ
在福岡米国領事館首席領事



地域分科会活動報告



地域分科会活動報告



地域分科会活動報告



豊後大友宗麟鉄砲隊の演武



小倉義人
実行委員会副会長



幸重綱二
実行委員会監事



ポール丸山CIE-US理事
による乾杯



楊志館高校の生徒達による太鼓演奏



歓談の様子



お別れのハグ

大会最後の行事となるフェアウェル・パーティーは、同ホテル内で会場を移して開催されました。パーティーに先立ち、キリシタン大名として知られる大友宗麟を顕彰する豊後火縄銃保存会の皆さんが、鉄砲隊の演武を披露。主催者挨拶と乾杯に続いて、楽しくも別れを惜しむ歓談の時間となりました。

会場を盛り上げ、参加者達を感動させたのは、楊志館高校の生徒達による太鼓演奏でした。太鼓の技術と迫力に加え、エンターテイナーとしてのすばらしさに、「CDが欲しい」との声も多く聞かれました。

7月13日～

ポスト・サミット・オプション・プログラム

7月13日朝、参加者達は、たくさんの友人をつくることのできた大分を後にしました。そのうち19名はその後、CIEが地域の団体やボランティアの方々と準備した熊本、京都、福島でのホームステイを含むプログラム、または東京での自由プログラムに参加しました。



熊本&東京プログラム
(協力:熊本市国際交流振興事業団)



京都&東京プログラム
(協力:中山貴恵さんとボランティアの皆さん)



福島&東京プログラム
(協力:福島県国際交流協会)

おおいた大会協賛企業



・オムロン太陽株式会社 ・富士通エフサス太陽株式会社 ・ホンダ太陽株式会社 ・三菱商事太陽株式会社



あたたかい空へ。あたらしい空へ。

ANA Inspiration of JAPAN

A STAR ALLIANCE MEMBER 

国内線のお問合せ ☎ 0570-029-222 (全国一律料金) 国際線のお問合せ ☎ 0570-029-333 (全国一律料金) www.ana.co.jp

「アマチ収容所保存会」の学生15名も参加！



「アマチ収容所保存会」の大学生・高校生15名も参加！

戦後70周年の今年、CIEはアメリカのNPO米日カウンシルが運営する「TOMODACHIイニシアチブ」から助成金を受け、コロラド州グラネイダで第二次世界大戦中の日系人収容所、通称「キャンプ・アマチ」の保存活動を行っている高校生と大学生15名と引率者2名を、おおいた大会に招待することができました。

彼らの住むグラネイダ市は、人口約500人の州境の集落。今回の参加で初めて飛行機に乗る体験をした生徒も、生まれて初めて海を見たという生徒もあり、彼らの成長に大きな刺激を与えたことでしょう。

参加目的の一つは、大会中に3回「キャンプ・アマチ」に関するプレゼンテーションを行うこと。第一回目は、大会3日目の立命館アジア太平洋大学 (APU) でのプレゼンテーションでした。パワーポイントで写真を示しながら、わかりやすく説明。APUの学生達からの、数々の質問にも的確に答えていました。

地域分科会の受入れにあたっては、県の教育委員会が全面的にご協力くださり、県立上野丘高校とコラボしたプログラムを準備してくださいました。ホームステイも、この高校に通う生徒の家にお世話になることとなり、朝もいっしょに登校し、昼食はホストファミリーが作ってくださったお弁当ランチを楽しむなど、日本の学校生活も体験しました。英語の授業では、グループに分かれて日本の生徒に囲まれ、お互いの生活や興味などについてのディスカッション。この時間が日米の生徒達にとって一番楽しいものとなったようです。もちろん、上野丘高校でもたくさんの生徒の前で、プレゼンテーションを行っています。

最後のプレゼンテーションは、クロージング・セレモニーの開催直前。広瀬県知事や佐藤大分市長などの来賓、またホストファミリーやボランティアの皆さんの前で、落ち着いて行うことができました。

—アントニオ・ウェルタ君から届いたメッセージ(抜粋)—

大分での草の根サミット大会は、本当に素晴らしい体験となりました。飛行機の旅から、ホストファミリーとゆっくり過ごした時間まで、どれもが最高でした。TOMODACHIイニシアチブからの助成金が無くては、こんな一生の思い出に残る体験はできなかつたと、幸運に思っています。

特に良かったことの一つは、英語の授業への参加。たった一時間でしたが、生徒達の関心事項や、異なった考え方を知ることができました。もう一つ感激したのは、フェアウェル・パーティーで披露された高校生の太鼓演奏です。とても情熱的で、全員がとてもかっこよかったです。

一番思い出に残っているのは、ホームステイです。僕のホスト・ファミリーは本当に素晴らしくて、今も彼らのことを毎日考えています。そして、家族の一人の男子とは、2日に一度はアプリを使ってメッセージをやり取りし、それぞれの生活の中で起こったことを伝え合っています。



草の根サミット、高知大学、東京での企業訪問をつなぐ初のプログラム

CIEでは、2012年のノース・テキサス大会でお世話になったテキサス大学ダラス校(UTD)と、万次郎の故郷にある高知大学の交流提携の仲介をしてきました。

その一環で、おおいた大会には、UTDの学生4名と、UTDアジアセンター所長が参加。大会の後、高知大学で1週間、東京で1週間過ごす、全行程21日間のプログラムとなりました。

高知大学では、土佐日記や日本のポップカルチャーの講義を受けたり、日本語クラスで初級会話を学んだりしました。学生同士の交流もカラオケも含めて密に行われ、同年代の学生との輪も広がりました。また、2泊のホームステイを通して、大分のみならず高知でも日本の家族の日常生活を体験しました。加えて、高知では台風直撃という、日本ならではの自然の猛威も体験し、「大分での地震、高知での台風と、典型的な日本らしい体験ができた」という感想も聞かれました。

東京での一週間は、国際的に展開をしている4企業に加え、国会議事堂、アメリカ大使館、皇居を訪問し、貴重な学びの機会となりました。東京では、日米国際会議の学生2名(徳島大学、筑波大学)と、明治学院大学の学生1名も、ボランティアとして行程に加わりました。



高知大学では、土佐日記や日本のポップカルチャーの講義を受けたり、日本語クラスで初級会話を学んだりしました



キッコーマンの東京本社では、本醸造にこだわった醤油作りや海外への市場展開などを学び、Q & Aも活発に行われました



トヨタ自動車のテーマパークであるMEGA WEBでは、水素自動車MIRAIの開発、今後の展開などのお話を伺い、実際に試乗もしました



国会議事堂と参議院議員会館も訪問



ANA訓練センターでは、飛行機のモックアップで非常時対応の体験。また、1時間半にわたる日本のビジネス・マナー研修も受けました



三菱商事本社では、テキサス出身の社員2名から、同社の女性活躍とCSRに関するプレゼンテーションを聞き、また同社のCSRステーションであるMCフォレストを訪問しました



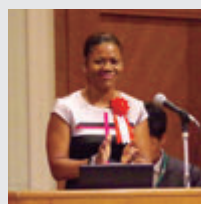
皇居訪問も三菱商事のご協力で実現

事務局だより

2016年大会はジョージア州、大分でおおいにアピール

2015年の日米草の根交流サミット大会は、7月に大分県内11市で開催されましたが、そのクローリング式典には、翌2016年の開催地となるジョージア州のアトランタから、6名の方々も参加しました。式典の最後には、大分のホストファミリーやボランティア、来賓の方々に向けて2016年大会への参加を楽しく呼びかけ、会場をおおいに盛り上げました。

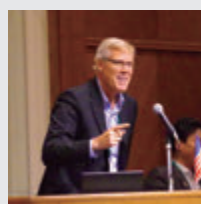
冒頭、アトランタ市首席補佐官であるキャンディス・バード氏が挨拶。大分で受けたおもてなしに感謝するとともに、アトランタの魅力について語りました。アトランタ市のプロモーション・ビデオで、CNNセンターやココ・コーラ博物館、キング牧師の記念センターなどアトランタの名所が紹介された後、壇上にはジョージア日米協会副会長のロバート・ジョンソン氏、同協会のプログラム委員会共同委員長のキヨ・コジマ氏とジム・ホードレー氏が登場。会場を巻き込んだ楽しいおしゃべりと、巧みなプロモーションで雰囲気は一気にジョージアへ。最後は会場全体で「我が心のジョージア」の大合唱。大分の方々の記憶に、ジョージア州をしっかりと焼き付けました。



キャンディス・バード氏



アトランタPR



ロバート・ジョンソン氏



会場の様子

平成26年度寄附協賛企業一覧 (50音順)



アイシン精機株式会社



曙プレーキ工業株式会社



イオン株式会社



鹿島建設株式会社



キッコーマン株式会社



株式会社ジェイテクト



全日本空輸株式会社



ダイキン工業株式会社



株式会社大庄



株式会社デンソー



東海旅客鉄道株式会社



豊田合成株式会社



トヨタ自動車株式会社



株式会社豊田自動織機



豊田通商株式会社



株式会社永谷園



株式会社ニフコ



日本郵船株式会社



日野自動車株式会社



富士通株式会社



ブラザー工業株式会社



三井住友海上火災保険株式会社



三菱商事株式会社



三菱食品株式会社



明治安田生命保険相互会社

愛知製鋼株式会社/アサヒグループホールディングス株式会社/東京海上日動火災保険株式会社
トヨタファイナンシャルサービス株式会社/トヨタ紡織株式会社/パナソニック株式会社/矢崎総業株式会社